

口腔と咽頭粘膜の乾燥（ドライマウス）

2012年1月

口腔乾燥症（ドライマウス）の主な原因の一つに薬剤の副作用があります。どのような薬剤が関与するのか、左の表にまとめてみました。これらの薬剤ばかりではなく、同じような作用機序の薬剤でしたら、唾液の分泌を低下させドライマウスの原因となってしまいます。

薬剤が原因でないドライマウスには生理的な唾液分泌低下に起因するものもあります。それは、生体リズム（体内時計）によるものです。

右の図はファーガソンの研究ですが、上段の体内時計の周期（深部体温、この研究では口腔温度）によって唾液分泌量が変化することを示しております。すなわち、体内時計の夜の時間帯（深部体温下降期）には唾液の分泌量が極端に減少し、その結果、いびきや無呼吸、ムセや誤嚥を生じやすくなります。体内時計には個人差がありますから、この時間帯は必ずしも深夜とは限りません。唾液の減少は、体内時計が早い人は睡眠の初期であったり、遅れている人は起床後であったりします。

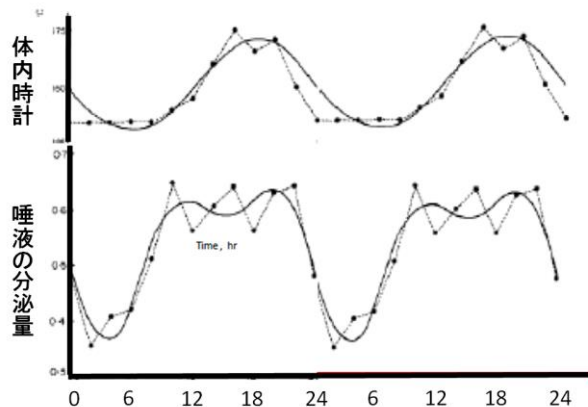
その他の原因としては、アルコールによる脱水です。アルコールは飲酒後3時間ほどでアセトアルデヒドという物質になり睡眠を障害します。と同時に、アルコールによる脱水があるため、飲酒した日の夜中に喉が渴いて目覚める方もいるでしょう。飲酒もほどほどにしなければなりません。また、電気毛布や電気敷布の使用も問題です。体中が乾いてミイラのようになってしまいます。

右の表は市販されている口腔咽頭粘膜の保湿剤です。乾いた皮膚に化粧水とかクリームをお使いになると同様に、乾いた粘膜には口腔咽頭用の保湿剤をお使いいただくことをお勧めします。

唾液分泌機能低下をおこす主な薬剤

降圧剤(Ca拮抗剤)	ノルバスク アムロジン アダラート
利尿剤(ループ系)	ラシックス ルクラック ダイアート
抗ヒスタミン剤	ボララミンなど
三環系抗うつ剤	
第一世代	アナフラニール トリプタモール フラニール
第二世代	アモキサソ プロチアデン アンプリット
抗コリン剤	アトロピン ブスコパンなど
抗不安薬	デパス メイラックス ソラナックス セルシン
抗パーキンソン剤	アーテン アキネトンなど
気管支拡張剤など	メトナミン メジコン

製品	保湿	界面活性	分泌刺激
マウスウォッシュ	+	+	-
デンタルコラーデント	+	+	-
デントシステムデンタルリンス	+	+	-
デントヘルスマウスローション	+	+	+
ウエットケア	+	-	-
サリベート	-	+	+
アンスノール	+	+	-
(参考)唾液	+	+	-



ファーガソンらの研究で、睡眠中の唾液分泌量の減少は体内時計の影響を受けることがわかった